情報公開は10/5 AM10:00～でお願いいたします。

Live Extreme / プレスリリース

2023年10月5日

「Live Extreme」がAmazon S3へのアップロードに対応
～AWSを利用した世界配信プラットフォームの構築が容易に

株式会社コルグ（本社: 東京都稲城市、代表取締役社長: 加藤世紀、以下コルグ）は、インターネット動画配信システム「Live Extreme」の最新版となる Version 1.11 にて、Amazon S3へのアップロードに対応したことをお知らせします。

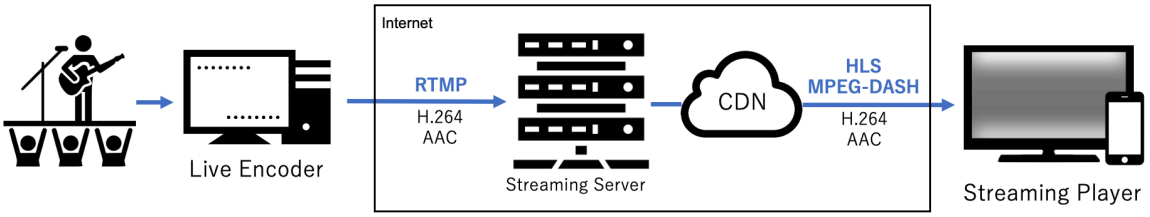


コルグが2020年9月に発表したインターネット動画配信システム「Live Extreme」は、オーディオ・クロックを配信システムの軸とした「オーディオ・ファースト思想」や、ロスレス／ハイレゾ・オーディオに対応した高い音質が好評を博し、これまでに100公演以上のコンサートやイベントの配信に採用されてきました。

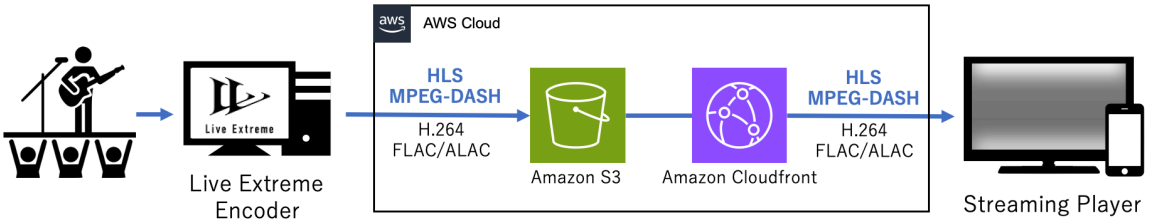
ライブ配信では一般的に「RTMP (Real-Time Messaging Protocol)」が利用されていますが、Live Extremeでは音声コーデックに、FLACやApple Losslessのロスレス・オーディオ・フォーマットが採用されていることから、再生データそのもの（HLSやMPEG-DASH）をライブ・エンコーダー内で生成し、ファイルをWebDAVまたはFTPプロトコルでオリジンサーバーにアップロードする方式が採られてきました。

このため、従来のLive Extreme配信プラットフォームでは、クラウド上に仮想サーバー環境を用意し、その上に高スループットのWebDAV／FTPサーバーを立ち上げる必要がありました。これには専門の知識とチューニングが必要となるため、新規配信プラットフォームを構築する上での課題となってきました。

「Live Extreme Encoder v1.11」では、ライブ配信データを、AWS (Amazon Web Services) が提供するAmazon S3 (Simple Storage Service) サーバーに直接アップロードする機能が追加されました。Amazon S3 Transfer Accelerationを使って、海外のサーバー（バケット）にデータを高速伝送することも可能です。これにより、Live Extreme配信サーバーを誰でも短期間で安価に構築することができるほか、CloudFront、Lambdaなど他のAWSサービスと組み合わせることにより、世界配信可能なプラットフォームも容易に実現できるようになります。



一般的な動画配信システム



AWS (Amazon Web Services)を利用したLive Extreme配信

コルグでは、Live Extreme Encoder v1.11のリリースに合わせ、配信事業者に対し、AWSを利用した配信プラットフォーム構築の技術サポート、および受託サービスを開始いたします。Live Extremeに対応した配信プラットフォームを拡充することで、高音質・高画質配信の更なる普及を促してまいります。

Amazon Web Services、AWS、Powered by AWS ロゴ、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon CloudFront、AWS Lambdaは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です

Live Extreme について _https://live-extreme.net

株式会社コルグが開発した業界史上最高音質によるインターネット動画配信システム。最大4Kの高解像度映像とともに、高音質なロスレス・オーディオをはじめ、更に高品位なハイレゾ・オーディオ（最大PCM 384kHz/24bit および DSD 5.6MHz）をライブ配信できる世界初*の画期的なシステムです。

*サンプリング周波数96kHzを超えるハイレゾ・オーディオに対応した動画配信システムとして（コルグ調べ）

【Live Extremeに関するお問合せ先】
株式会社コルグ 技術開発部 Live Extreme担当
EMAIL: live-extreme@korg.co.jp
公式サイト : https://live-extreme.net
facebook : https://www.facebook.com/KorgLiveExtreme
Twitter : @KorgLiveExtreme